

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度 第9回春日区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 報告事項（公開）

○ 「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

### (2) 協議事項（公開）

○ 自主的審議について

1) 前回のグループワークの結果について

2) 今後の進め方について

## 3 開催日時

令和3年9月28日（火）午後6時30分から午後8時40分まで

## 4 開催場所

市民プラザ 第3会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委 員：阿部一博、石田秀雄、市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、白濱昭博、  
田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、  
吉田 実（副会長）、吉田義昭、鷺澤和省、渡邊康子、渡部忠行（欠席3人）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 太田会長が遅れて出席するため、吉田副会長が会長の任を代行することを報告

【吉田 実副会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなるが、会長不在であるため吉田副会長が代行することを報告

【吉田 実副会長】

- ・会議録の確認：石田委員に依頼

次第3 議題「(1) 報告事項」の「『地域協議会に関する意識調査』結果を受けた取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料1に基づき説明

【吉田 実副会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

地域協議会への依頼事項はそれなりに取り組んでいるとの説明であった。さらに研修等で発展的に取り組めるものについては、地域協議会の中で話し合いながら進めていけばよいと思う。

【谷委員】

資料1の2ページに「ウ 元気事業について」とあるが、「元気事業」とは具体的にどういったものか。あまり聞いたことのない名称だが、協議会の活動等も含めて、具体的にどのようなものが元気事業とされているのか教えてほしい。

【藤井係長】

本日、資料等を持ち合わせていないのだが、「元気事業」は実例がほぼなく、頸城区にて2件実施されたのみである。

頸城区の「大池いこいの森」はもともと市の財産だが、その管理について地域団体が主体となって行うといった事業がある。地域協議会で議論し、市に提案いただいた。市でも、予算や必要な制度の見直し等を行い、地域住民が大池の管理をできるような状態を作ったという取組であった。

地域の団体と市が一緒になり、必要であれば予算も持ち、協働して事業を行っていくのが「地域を元気にするために必要な提案事業」である。まずは地域協議会から提

案をいただき、市と相談等をしながら、実際に予算も組み立てていくといったイメージである。

本日は十分な資料がないため、折に触れて改めて説明したいと思う。

**【吉田 実副会長】**

「元気事業」との言葉は自分もよく分からないが、すぐに何かしなければならぬ課題ではないため、今後、頸城区の事例等も含めて、事務局や担当課より説明を受けながら勉強していけばよいと思っている。他に質問等あるか。

(発言なし)

今後の宿題が出されているため、自主的審議の中でも活かしていければよい。

以上で次第3 議題「(1) 報告事項」の『『地域協議会に関する意識調査』結果を受けた取組について』を終了する。

次に次第3 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議について」の「1) 前回のグループワークの結果について」に入る。事務局より説明を求める。

**【藤井係長】**

- ・資料2に基づき説明

**【吉田 実副会長】**

前回の会議で行ったグループワークの発表者より、資料に記載されている内容について順に説明願う。

最初にAグループより説明を求める。

**【岡本委員】**

- ・資料2に基づき説明

**【吉田 実副会長】**

補足説明等あるか。

(発言なし)

Aグループのまとめた内容について、質疑を求める。

(発言なし)

後ほど、すべてのグループについて改めて質疑を受けたいと思う。

次にBグループより説明を求める。

**【谷委員】**

- ・資料2に基づき説明

**【吉田 実副会長】**

補足説明等あるか。

(発言なし)

Bグループがまとめた内容について、質疑を求める。

**【渡部委員】**

「1. 困っていること」の2段目に「通学路の直線道路でスピードを出す車を何とかできないか」とあるが、具体的にどのあたりの道でスピードを出す車が多いのか。

**【谷委員】**

具体的な場所の言及はなかった。

**【渡部委員】**

今年度、交通安全協会春日支部では、コロナ禍の影響もありできなかった活動が多かったため予算が余り気味である。今考えていることとして、そういった危険な個所に看板やカーブミラー等を積極的に設置しようと考えている。だが、地区内を自分がすべて見回るわけにもいかない。そのため、危険個所等があれば教えてほしい。

最近、藤新田に看板を4つ取り付けたが非常に好評であった。そのため、今後も危険な個所に設置を検討している。具体的な場所が分かれば、参考にしたい。

**【吉田 実副会長】**

Bグループ内で誰が発言した内容か、分かれば教えてほしい。

**【田中副会長】**

グループワークの際は、本日欠席の松澤委員が「道路が直線であるためスピードを出す車がいるのだが、何とかならないか」との話をしていた。

**【渡部委員】**

知りたいのは、指摘している場所とそこの法定速度である。もし気が付くこと等あれば教えてほしい。

**【谷委員】**

確認する。

**【吉田 実副会長】**

後日でもよいため、改めて情報提供を願う。他に質問等あるか。

(発言なし)

次にCグループより説明を求める。

**【丸山委員】**

・資料2に基づき説明

**【吉田 実副会長】**

補足説明等あるか。

**【渡部委員】**

「1. 困っていること」1つ目の、「春日山3：アオキ前の道路の冠水（春日野で管が細い）」とあるのだが、管が細いというわけではない。

自分が以前に町内会長をしていた際、春日地区町内会長連絡協議会の会長より「春日も中門前も、アオキ前が冠水しているため水浸しだが、下流の春日野の道路は大丈夫か」と聞かれ、「春日野は何ともない」と答えたことがある。

最近では、4・5年前から比べるとあまり大きな洪水はないのだが、アオキ前の春日山町3丁目は水が上がりやすい。噂によると、春日山町3丁目の町内会長を主体として、同盟会を作って対応する話となったようである。

管が細いわけではなく用水があるため、用水との関係で水はけが悪い。そのため新光町3丁目方面にも繋がっているのだが、水が僅かしか行かないようになっている。あの場所は、少しでも雨が降ると水が上がりやすい場所となっていると思う。

**【吉田 義昭委員】**

水道が細いのだと思う。

**【渡部委員】**

そうである。

**【谷委員】**

Bグループでも「大雨が降ると浸水箇所が多くある」との意見があった。春日区全体で大雨の際に浸水するような箇所を洗い出し、どのような所なのかを持ち寄ってみるとよいと思う。これを機会に1度調べてみてはどうか。毎年同じことの繰り返しとなっているような場所があると思う。

**【吉田 義昭委員】**

木田町内でも、水が漬いた時の話はよく出ている。

最近では災害マップ等が配布されているが、春日区内でどのような災害があるのかを見ると、考えられるものとして、水害、土砂崩れ、豪雪時の冠水等があると思う。問題となる町内等で話題が出ていると思うため、それぞれの町内会長より聞いてもらう

ような勉強会をしてはどうか。そういったことをクローズアップして行っていくべきだ。

次にCグループの内容で補足である。

「1. 困っていること」の中に、「町内会長・班長等の名簿が欲しい」とあるが、「班長」とは発言していないため、記載は削除してほしい。知らなければ連絡を取ることができないため、町内会や各団体の役員名簿が欲しいと発言した。上越市全体ではなく、春日区にのみ関係する団体で構わないため、公開してもよいのではないか。

#### 【吉田 実副会長】

その話は地域協議会全体の中で検討したい。個別に、「自分の町内はこうだ」との話はあってもよい。

#### 【谷委員】

春日山の麓をもう少し整備してはどうか。歩いている人も多く、観光客も増えてきている。地域活性化との意味も含めて、周囲を見て回ると、少し整備するとよくなるのではないかと思う場所がある。できるところから手をかけていかなければならないと思う。

「設備がない」「土産屋がない」といっても、中々すぐにはできない。できそうなところから積み上げていくために、地域に呼びかけをする基となるような組織も必要と思う。地域でやることも含めて、企業・学校・各種団体に呼びかけをするにしても、まちづくりのための組織体のかたちをとっていく必要があると思う。

そのためにも、地域を見て回る機会をぜひ作って、協議会委員にも見てもらいたい。各町内がどのように変化しているかの勉強会もよいし、人口の動態について勉強してもよいと思う。

#### 【吉田 実副会長】

以上ですべてのグループの説明を終了する。全体を通して補足や質疑を求める。

#### 【鷲澤委員】

Cグループの補足である。

Cグループの中で出た課題等を集約すると、結局は前期の地域協議会の自主的審議で行った「福祉」「安全・安心」「観光」に集約されていくことが確認された。

例えば福祉でいうと、地域コミュニティ、少子高齢化問題等である。安全・安心では、除雪を始め、細かいところではラジオ体操等の重要性についても言及があり、3

つの審議事項に集約された。

次に、いろいろな意見や課題が出されたが、先ほどの谷委員の発言のように、委員全員が地域の実態を共通に理解する必要があると思う。例えば、現在市が行っているまちづくりのポイントを押さえる等、地域協議会全体で理解し自主的審議に入ったほうがよいとの考えに集約された。

さらに、いろいろな課題が出てきた中に、春日区全体で解決していかなければならない問題もいくつかあるため、それらをまとめる組織づくりが必要だと思う。

例えば「地域振興協議会」といった組織を作ってはどうか。地域協議会や町内会役員、民生委員等、地域を代表する組織の人々が集まり、地域全体の課題や「元気事業」等について考えていく組織を作ってはどうかとCグループでは集約できた。

地域の振興協議会が行う内容としては、例えば、春日山荘の問題、あるいは元気事業、踏切事業、高齢者支え合い事業等、今考えただけでもいくつかある。そういった課題を解決し、春日区を活性化していく必要があると集約された。

#### 【吉田 実副会長】

3グループ全体で、質疑等あるか。

#### 【本多委員】

いろいろな提案が出されたが、春日区で自慢できることとしては、やはり春日山城跡だと思う。

そこには、ちゃんと整備に取り組んでいる団体がある。基本的に市はタッチしておらず、「春日山城跡保存整備促進協議会」が中心となって行っている事業なのだと思う。そういった団体とタイアップして進めていくのか。

地域協議会だけでいくら話をして、「絵に書いた餅」ではどうにもならない。本気になってテーマを掲げて進めていくのであれば、「春日山城跡保存整備促進協議会」以外にも団体はあるが、協力していく必要があると思う。

地域協議会で本当にできるのか、不安があったため発言した。

#### 【吉田 実副会長】

今後、自主的審議を進めていく中で、当然、各種団体等とはコミュニケーションを取っていかなければならないと思う。だが、前期の地域協議会の観光分科会では、「春日山城跡保存整備促進協議会」とはあまりコミュニケーションを取っていなかったように思う。本多委員の言うように、今後は様々な団体等とコミュニケーションを取っ

ていかなければならないと思う。

#### 【谷委員】

研修の件だが、これまでも話が出ており、また地域を知ることはいろいろな意味で重要なポイントになり、参考になると思う。どのようなかたちとなるのかは分からないが、ぜひ考えてもらいたい。

#### 【吉田 実副会長】

以上で次第3 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議について」の「1) 前回のグループワークの結果について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議について」の「2) 今後の進め方について」に入る。

資料3にこれまでの話題を層別してまとめている。今ほどの谷委員の発言にあった研修も確か入っていたと思う。事務局より説明を求める。

#### 【藤井係長】

- ・資料3、参考資料に基づき説明

#### 【吉田 実副会長】

資料3は、委員より出た意見を層別したものになる。参考資料はこれまでの事例や実績を踏まえて、今後の進め方を例示している。

本日は、地域で抱えている課題について話を深めるというか、委員が共通認識を持つための場を設けていると捉えてほしい。

先ほどの鷺澤委員の発言にあったが、Cグループでは前期の地域協議会の自主的審議のテーマとなった3つのテーマに集約できたようである。全体で話をしながら、方向性を出せばよいと思っている。

テーマの絞り方や事務局より例示された今後の進め方について、意見を求める。

#### 【吉田 義昭委員】

参考資料に「市から情報提供を受ける」とあるが、自然災害に対して市はどのように捉えているのかを知りたい。春日地区の水害の頻度や土砂崩れの可能性等、市で捉えている情報について説明を受けたいと思っている。

次に、春日区の1人暮らし世帯が実際にどの程度あるのか知りたい。

次に、町内会や各種団体と情報交換する機会を作ってほしい。その際、前回のグループワークで出た内容にテーマを絞って、それぞれの団体等がそれらをどのように捉



えているのかを情報交換できればよいと思っている。

**【吉田 実副会長】**

確認である。

今ほどいくつかの意見があったが、1つ目の「自然災害について担当課より説明を受けたい」というのは、春日区に限定したものでよいのか。

**【吉田 義昭委員】**

そうである。

**【吉田 実副会長】**

2つ目は1人暮らし世帯の状況説明だと思うが、3つ目について、今一度発言願う。

**【吉田 義昭委員】**

テーマを絞った中で町内会長と意見交換をしたい。

各町内会では、それぞれに困り事を抱えていると思う。それとは別に、前回のグループワークで、我々も一住民の立場から意見を出した。それらをお互いの共通の認識とする意味で、意見を基にテーマを絞って意見交換してはどうか。

ただ漠然と参加してもらっても前に進まないと思うため、時間をもったいない。そのためテーマを絞って実施してほしい。

**【吉田 実副会長】**

過去に行った町内会長との意見交換では、特にテーマを決めずに、各町内会の現状の問題等を話してもらったことがある。また、自主的審議の進捗状況を聞いてもらったこともある。

今は自主的審議のテーマを探している段階である。この段階で意見交換を実施して、参考にできることもあると思うが、実施するタイミングについては改めて検討したい。

正副会長と事務局での事前協議中でも、町内会長との意見交換について話が出たため、事務局に調整等を依頼している。大分収束はしてきたのだが、やはり新型コロナウイルスの影響もあるため、全町内会長との意見交換が難しいようであれば、町内会長連絡協議会の幹部の方々より情報を集めてもらい、その内容で意見交換を行ってもよいのではないかと。

**【谷委員】**

春日区全体ではなく、町内会別の人口動態を分析してはどうか。世帯数を知ることができ、子どもが増えているところと減っているところを知ることができると思う。

また分類の仕方についても、これまで市が行っていた5歳刻みの分類ではなく、乳幼児・小学生・中学生・高校生・社会人・高齢者・後期高齢者と分けてデータを出すことができれば、気が付くことが必ずあると思う。

町内会の存続が危ぶまれるところも出てきているため、町内会単位でのデータを出してほしいと思っている。

**【吉田 実副会長】**

確認だが、それは春日区のみでよいのか。また、目的は何か。

**【谷委員】**

例えば、小学生・中学生・高校生・社会人、高齢者も前期高齢者と後期高齢者で分類したデータを知ることができれば、福祉あるいは防災の面においても役立ってくると思う。

そういった実態を見ていくと、かなり増えている町内も、減っている町内もあると思う。まず実態を知って、勉強することが必要だと考え、現在調査をしている。

**【吉田 実副会長】**

要望として聞いておく。他に意見等あるか。

**【市川委員】**

否定的、悲観的な話になるかもしれないのだが、現在、南地区の町内会長連絡協議会も2年間開催していない。春日地区でも、2年間は会議を開催していない。

情報収集に関して、現在、どれくらい的人数で会議を開催すればよいか市からまったく情報が来ていない。

新型コロナウイルスの感染が拡大した昨年4月に文書が配布されたが、担当の共生まちづくり課に確認しても、今年度は新しい情報が来ていない状況である。

情報収集をすることは、非常に大事だが情報収集の仕方を少し考えていかなければならないと思う。町内会長と意見交換をするにしても、春日区の町内会長と地域協議会委員の40人ほどの会議を、果たして開催できるのかを考えていかなければならない。

情報収集は非常に大事なことであるため、もし、事務局で現在掴んでいる情報として、会議の収容人数等知っていれば教えてほしい。

**【藤井係長】**

会議の開催に関しては、特に何人との取り決め等はない。ただ、市では、会議を開催する際の運用として、会場の定員の半分を上限としている。相手方の考えもあるた

め、改めて相談したいと思う。

**【吉田 実副会長】**

補足である。

田中副会長より、面と向かっての会議が開催できない場合には、文書による情報収集やアンケート実施の提案があった。また全体で協議・検討していけばよいと思っている。

**【渡部委員】**

さらに悲観的な話で申し訳ないが、この自主的審議について自分たちにはどのような力があるのか疑問に思う。

町内会長と連携を取って何かをするにしても、自分たちには何かしらの資金があるわけでもない。過去4期の地域協議会で、どのようなことが実現しているのか。また、労力をどれくらいかけることができるのか。

「春日山城跡史跡管理組合」に参加しており、午前中に草刈りに行ってきた。そこで、いろいろな話を聞いたのだが、非常に否定的な意見が多かった。

地域協議会が何か提案をするにしても、どういうことが実現できるのか。市長に意見書を提出するといったことが記載されているが、過去に実績はあるのか。自分たちにどこまでの力があるのか分からない。

地域協議会で予算を持っていれば、町内会長連絡協議会も賛同してくれるかもしれないが、予算がないため、団体側の都合と合わなければ何もできない。

これまでの4期の中で、意見書を提出して実現したことはいくつあるのか。

**【吉田 実副会長】**

3期目の活動について前回の会議で紹介した。

冬季間、通学路の歩道を除雪をしてもらえないため、意見書を提出して除雪してもらえるようになった。

また板倉区では、小学校の統合を地域協議会で検討し、実際に統合した。

**【渡部委員】**

春日区では何があるのか。

**【吉田 実副会長】**

春日区で小学校が統合したということではない。春日区では、通学路の除雪についての意見書を提出し、実現している。この1件だけである。

ただ自主的審議については、地域活動支援事業の審査があり、中々時間が取れず、2期目はほとんどできなかつた。3期目でようやく時間を取り、審議ができた状況である。

#### 【渡部委員】

地域活動支援事業の審査の参考とするため、たくさんの知識を得ることは素晴らしいが、自分たちは提案することができない。一生懸命勉強しても、自分としては、あまり大きなことは考えられないため、どれだけ努力する価値があるか。

我々が市長に提案して実現性があるのであれば頑張るが、あまり実現性があるようには思えない。

資料を確認したが、先ほど鷺澤委員の発言にあったように、ほとんど前期までのテーマと同じであった。つまり、結局は進展がなかったということではないか。むしろこれから自主的審議テーマをどうするのが大事であると思う。

#### 【吉田 実副会長】

3期目で協議した内容でいうと、安全・安心分科会で、春日山駅南側の踏切に歩道がないことを指摘し、担当課とも話をした。

当時は、南高田の踏切工事が実施された翌年であり、非常に大きな予算がかかるため、順番待ちの状態であった。ただ、手を上げていなければ予算はつかないため、提案を続けていくことも作戦の1つだと思う。町内会長連絡協議会でも同じ提案をしており、さらに地域協議会からも同じ提案をすれば、それが圧力になることもあるため、根気よく行う必要がある。

実現しないかもしれないが、話題を提供する・問題提起をすることも大切である。

重要なこととしては、前期の安全・安心分科会では、自分たちで実際に現場に行つて状況を把握し、勉強して意見書を作成した。その努力が必要である。自分もレベルアップしていかなければならないため、これは本当に大変なことである。どのようなことを勉強したいのかを提案してほしい。

先ほどの鷺澤委員の発言に、「前期の3つのテーマに集約された」とあったが、それは重要な内容であるから出てきたのだと思う。そして、重要な内容であれば、何度でも繰り返し協議していけばよい。

#### 【小林センター長】

自主的審議を始めるに当たつての本質的なところであるため補足する。

これから始める自主的審議は地域協議会で地域の課題を挙げ、地域の活力向上に繋がるような審議を行うということである。

渡部委員の質問は、自主的審議を行うに当たって、落としどころ・結末はどこか、自分たちにどの程度のことができるかという内容であった。

これらの答えとして、任期の最初に配付した「地域協議会委員の手引き」の9ページ目に記載されているため、改めて確認をしてほしい。

自主的審議のまとめ方として4つのパターンがある。

1つ目は「地域内での解決に向けた活動」である。地域協議会は実働部隊ではないため、地域の団体と協力をして何か事を成すということである。

2つ目は「地域活動支援事業の活用」である。地域活動支援事業を団体に使ってもらうことによって、間接的に事を動かす方法である。

3つ目は「意見書の提出」である。地域協議会は、市長へ意見書というかたちで提案ができる立場にある。提出した後に市の回答を受けるが、必ずしも実現することばかりではない。

そこで4つ目の、先ほど質問も出た「地域を元気にするために必要な提案事業の活用」がある。実績としては2件しかない。「元気事業」を簡単にいうと地域協議会の意見と市の担当課ですり合わせをし、実際に担当課と連携して事業を進めるということである。

渡部委員の質問に対する回答としては、4つのパターンがあるということである。

確かに、話がうまく進んで市が動いたことや、事業化したということはあまり例がない。だが、それについて取り組むのが、冒頭の議題「(1) 報告事項」の『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について』ということである。

地域協議会委員より提案いただいた意見を、市としてこれから前向きに取り組もうと考えている。特に「元気事業」については、今後、前向きに取り組めるよう準備していきたいと思っている。

資料1の2ページ目の「イ 情報共有について」を確認してほしい。

最近、清里区であった事例である。「イ-2 市の今後の取組」として、「空き家対策の審議から、『(仮称) 安心ノート』の取組につながったなど、自主的審議から課題解決の取組に繋がった事例がある」との記載がある。自分が聞いた話によると、清里区でも自主的審議として高齢者支援の話をはじめたのだが、市としてもなかなか具体的な案

が出なかったとのことである。そうした中、地域協議会で交換日記のような「安心ノート」を地区内で行った。それにより安否確認もできるということで、清里区ではマッチしたようである。取組みとしては、非常に成果が上がっていると聞いている。

先ほど吉田副会長の発言にあったように、声を上げる、また動いていく中で何か有効な手段が見つかるようなことを考えてほしい。

**【吉田 実副会長】**

いつも発言する委員が決まってしまっているため、本日は全員より簡潔に発言願いたいと思う。渡部委員より順に発言願う。

**【渡部委員】**

先ほども発言したように、これから地域のことを相当勉強するのだが、本当にそれが何かの力になればよいと思う。しかし、資金もなく、ただ口だけとなることが心配である。

**【渡邊委員】**

先ほどの谷委員の発言にあった、地域について勉強する研修会を、ぜひ実施してほしい。

**【鷲澤委員】**

上越市は17、18年前に14市町村が合併してできた町である。

現在の上越市は多様なまちだと思う。過疎地域と呼ばれる地域や、どんどん人口が増えて都市化していく地域など色々ある。

各地域を活性化して課題を解決していくためには、どうしたらよいのかを、合併時にかなり厳しく検討したようである。その際に上越市が採用したのが「地域自治区制度」である。地域の課題を解決していくために、地域住民から成る「地域協議会」を公募公選制で選び、活性化の起点として出発した。

任期当初に配布された「地域協議委員会の手引き」の中にほとんどが集約されているが、自分たちはその基本的な理念に立ち返って、自分たちの住む春日地域をどのようにしていくのか、地域協議会委員としての役割をどのように果たしていくのか、原点に戻って考え、実行に移していく必要があると痛感している。

地域自治区制度や地域協議会については、市議会の総務常任委員会で検討されている。地域協議会委員として、どう対応していくかだと思う。

**【吉田 義昭委員】**

自分は地域協議会委員として、協議している内容を実現するための研修等を実施して、知識を付けたいと思っている。自主的審議を実現するためには4つ方法があるとの説明もあったが、それを実現するためにも、知らなければ前には進まないため勉強させてほしい。

**【山田委員】**

せっかく全員が春日区にいるため、できることであれば情報収集をしてはどうか。

例えば、1人暮らしや空き家について情報を集め、どうすればよいのかを1つのテーマにしてはどうか。

**【丸山委員】**

以前、民生委員を務めており本当に大変だったが、今は新しく民生委員となった人が同じ思いをしている。他の地区では、民生委員を補佐するような人を選んでいるところもある。

町内会の名簿や民生委員について、何か各地区でバラバラのようなどころがある。もう少しよい意見は取り入れて、1人の負担が大きくなるような組織を目指し、小さな力ではあるが誰かの役に立つことができるとよい。

**【本多委員】**

グループワークで各グループより出た意見を見ていると、どこのグループでも出た意見が似ている。委員の考えはそう大きく変わらないように思う。

内容を見ると、地域協議会だけでは動くことができないものが多い。項目によっては関連する団体等があるため、どれだけ緊密に連携を取っていけるのかが、近々の課題のように思う。

そういったところを重視しながら、微力ながらも頑張りたいと思っている。

**【藤田委員】**

資料3の「2 観光分野」の「春日山城跡」を見ると、「5.進め方」として「春日山の観光については、春日山の観光を盛り上げる活動をされている各種団体との意見交換」と記載されている。

最近、直江津で開催されていた「うみまちアート」で、まちが活性化している様子が新聞に掲載されていた。どのようにしてそのような状態になったのか。関係者のどういった取組が評価されたかが分かればたいへんよい。

春日山を活性化せたいという気持ちは皆、持っていると思うが、足りない点もたく

さんあるのかもしれない。地域活動支援事業に提案される団体の意見も聞きながら進める手法もあるのではないか。

#### 【谷委員】

先ほどから発言しているように、研修会・勉強会を実施して地域をもっと知ることからスタートしていきたい。

人口の問題は、高齢者から子どもたちも含めて、地域の縮図となっている。この世代はどのような形態になっているのかをまったく知らずに、「人口が増えている」との1点で安心している。だが、中身はそうではない。5年も経てば、高齢者が何百人と増えている。そういったことも含めて、どうしていくのかを見ていきたい。

次に、もう少し春日山の麓を活性化して、観光等を作り上げていければよいと考えている。そして、春日山の魅力である周辺の「土地」「場所」「風景」等を改めて見て回ると、普段は当たり前のように見ているものも視点を変えて見ることで気が付くことがあると思う。

#### 【白濱委員】

前期の地域協議会の自主的審議のまとめと、前回の協議会にて行ったグループワークの結果を見比べている。

前期に設定した3つのテーマはよい中身だと思う。ここに今回の意見を取りまとめ、改めて「福祉」「観光」「安全・安心」の3つの分科会で進めてはどうか。

#### 【岡本委員】

広く意見を出し合って自主的審議を進めていかなければならないのだが、将来を展望した場合、あまり時間がないような気がする。前期のまとめもあるため、早急にある程度はテーマを絞ってはどうか。いろいろな団体等から情報を収集しては本当に時間がなくなってしまう。

各委員が、自分が最も取り組みたいテーマを1つ取り上げて、全体会議で諮ってみてはどうか。地域協議会は月1回のペースで開催しており、また冒頭から自主的審議に取り組めるわけではない。早めに進めていかなければ、後が大変になると思う。

#### 【太田会長】

補足である。

今ほど岡本委員より、時間がないとの話があったのだが、「目的」や「どういったテーマで進めていくのか」については絞っていかなければならない部分だと思う。



先日行った正副会長での事前協議の中で、進め方について2つの話が出た。

1つ目は、決まったテーマに向かっていくということである。例えば、前期で行ったような、除雪の悪い箇所を指摘し、それに対して意見書を出して解決してもらおうということである。

そういったことであれば、単年度・短い期間で進めることができると思う。

いろいろな話が出てきている中で、すごく大きな目標を立てると、確かに単年度ではなかなか結果を出すことは難しい。今は大きなテーマ・幅広い方向に矛先が向いているため、もう少しテーマを絞り込んでもよいと思う。

2つ目として、大きなテーマで進めるのであれば「今年度はここまで進める」として、残りの任期内に「ここまで行って、何か結果を出す」といった目標を作っていかなければ結果は出せないと思っている。

今、いろいろな話が出てきている。いくつかの分科会に分かれてテーマを進めていくのか、1つのテーマに向かって全員で何か結果が出せるように進めていくのか、または、今期中に結論は出せないが、何かしらの準備をして次期委員に引き継いでいくのか、いろいろな選択肢があると思う。本日、方向性を決定することは難しいため、次回・次々回の協議会までに、ある程度のテーマを決めることができればよいと思っている。そして、決定したテーマの中で「今年度はここまで」「任期内にここまで」といった、スケジュール的なものを具体化していきたい。

#### 【市川委員】

自分は岡本委員の意見に賛成なのだが、そのためには情報収集が非常に大切だと思う。情報収集のやり方として、委員が単独で行う場合、果たして市や関係各所が対応してくれるのか分からない。

今後、「観光」「安全・安心」「空き家対策」「雪」等、いろいろな問題が出てくると思う。それらについて情報収集をするためには、代表が行くのか、個人的に行って対応してもらえるのか等がまだはっきりと分からない。

これから勉強していけばよいと思う。

#### 【石田委員】

「通年観光を目指している」とどこかでうたっていたが、春日山に観光に来た時に休憩や食事、土産を買うことができる場所がなく、ソフトがあまり整っていないため、もう少し目を向けてほしいと思っている。

こういったことは地域協議会として実現することは無理なことだと思うため、市にはもう少し本気度を示してもらいたい。

次に、現在、リージョンプラザの近くに観光物産センターがあるが、あのような施設が春日山にあればよいと思っている。

#### 【阿部委員】

石田委員と似たような話になるのだが、やはり観光事業にもう少し力を入れていかなければいけないと思っている。もう少し、予算をその方向に向けてもらいたい。

#### 【吉田 実副会長】

正副会長からも一言ずつ意見を求める。

#### 【田中副会長】

これまでの意見を聞いていて、地域協議会として何かを成し遂げるとなると、観光や防災のような大きなテーマを設定しても、普通のことしかできないように思う。

また、お互いに何ができるのをあまり分かっていないように思う。例えば、委員の中に町内会長の経験者がいるのは強みであり、他にもこれまでに蓄積してきたノウハウがある人もたくさんいる。その中で、何か1つのものに向かって力を集めていくことができれば、とてもよいと思う。

また、取り組み方として、例えば、「一人暮らし」の調査をする場合、市に依頼することは1番簡単な方法だと思うのだが、自分たちの住んでいる町内を各自が回って調査してもよいと思う。または2・3人のグループで調査してもよい。このように、できることから行ってみるともっと違う話ができると思う。

1人1人が自分の得意分野を持っている。その強みを、地域協議会委員20人プラス、事務局3人の中で活かすことはできないか。前向きではないのかもしれないのだが、これからの地域協議会のあり方としての自分の希望である。

#### 【太田会長】

自分は、地域協議会は今期が2期目である。

前期と今期を経験し、先ほど渡部委員の発言にもあったように、地域協議会委員の力のなさを感じるところがある。地域協議会として「何ができたのか」というと、本当に大きなことをできる力はないと、自分も痛感しているところである。

自主的審議については、選択肢が2つあると思う。

1つ目。地域協議会委員として、「何か結果が残せた」「頑張った」といった達成感

があったほうがよければ、大きな目標ではなく、本当に地域の小さなところ・困っているところ等に目を向けて、どうすればよいのかを考えればよい。「協議会委員でできることは何か」「関係団体で何か動かせることはないか」、また前期であったように、「市長に意見書を提出して何かしら対応してもらえるよう考えること」等がある。

2つ目。前期は3つの分科会で結果を残せているものはほとんどない。だが、地域のことを知り、困っていることや魅力的なところを知ることができ、少しでも春日区を理解できる部分があったと思っている。

何かあった際に「それはこうすればよい」、「このようなことに困っている」と地域協議会で話をして、協議会でできないことは市へ持っていく、逆に市でできないことは地区内に住む市議会議員やさまざまな活動団体に話を持っていくことが委員の役割と思っている。

大きな目標に向かって行くことは、大変なことだと思う。その大きな目標に向かったところで、達成感はなかなか掴めない部分はある。委員各自の感じ方で、達成感を求める方向でいくのか、または大きな目標に向かって何か少しでも整備ができるような方向でいくのか、話をしながら進めていくことができればよいと思う。

また、現地視察といった話が出ていたが、ただやみくもに春日区内の町内をまわって見ても、理解することはなかなか難しいと思う。現地視察をするにしても、例えば、先ほど話にあった水漬きで困っている町内を回る等、何かテーマを決めなければならないと思う。1日ですべての町内を見て回ることも時間的に難しいと思う。

現地視察をするにしても、「今年度はこれ」「次年度はこれ」と的を絞って実施することができれば、今ははっきりしていないところも、少しは色が見えてくるかもしれない。

#### 【吉田 実副会長】

4期連続で地域協議会委員をしている自分の考えである。

春日山観光は以前より出ている話題なのだが、観光が発展して観光バスがどんどん来ることになった場合、石田委員の発言にあったように、インフラが整備されていないため、道路が渋滞してしまい、地元の人にとってはかえって迷惑がかかってしまう。

そのため、本当に春日山観光を考える場合、店や駐車場・道路等、インフラから見直していかなければならないと思う。エネルギーや知識も蓄えなければならず、知らないことも多いため大変だと思う。

2期目は研修費を使用してマイクロバスで長野県等、研修に行くことができた。松代城では、地元の力もあって、国の予算を使ったと思うが城の復元をした。ガイド等、やはりキーマンとなる人物が地域おこしで地元の活動を支えていた。そういった「人づくり」の面でも、今後、自分たち自身で勉強をして、地域のための人になっていかなければならないと思う。

自分も3期目までの地域活動支援事業の審議等で相当、勉強をさせてもらった。そして、3期目の自主的審議の安全・安心分科会ではリーダーを務め、踏み切り、春日小学校の通学路、小峰橋等、分科会のメンバーと一緒に現地を歩き状況をよく見て、いろいろと検討をした。

2期目と3期目に共通している研修としては、春日山へ歩いて登り、担当課より説明を受けた。地域協議会の中に観光ボランティアをしていた人がいたため、その人からガイドをしてもらったこともあった。

春日区内を回るとはよいと思うが、まずは春日区のお宝である春日山に皆で登って、研修してほしい。自分たち自身が地元を知らなければならない。そのまず第1歩は春日山だと思う。

#### 【渡部委員】

自主的審議をどのように進めていくのか、スケジュールを示してほしい。

定性的な話をしていては的を絞ることはできない。具体的なテーマで進めていかなければ絶対にうまくいかないと思う。

#### 【吉田 実副会長】

例として、前期の話をする。

前期の自主的審議では、「安全・安心」「観光」「福祉」とグループ分けをされただけで、具体的内容や進め方は各グループに任された。

「安全・安心」では、各委員より通学や踏切の問題が出され、グループの中で具体的な内容を掘り下げていった。それはまた、検討して進めていければよいと思う。

#### 【吉田 義昭委員】

地域協議会は月1回程度開催されている。自分たちの委員任期は、令和6年4月までであり、残り2年半ほどあるが、これまでどおりに月1回の開催でこのような進め方をしていては審議できるのか疑問である。

先ほど挙げた「一人暮らし」についてを例にすれば、事務局や担当する委員が調

べ、次の会議で報告し、レポートを配布して審議を行うなど、テーマを決めてやっていかなければ前に進まないと思う。

また、吉田副会長から具体的に説明してもらったように、各グループで調査などを行い、次回までに議論して報告してもらうことにして、それに基づいて全員で審議する。各グループでそのような進め方をするのであれば、3年間である程度かたちになる可能性はあるが、月1回の会議で、その間に地域活動支援事業の審査もあるとなると、さらに審議が進まないと思う。

#### 【吉田 実副会長】

前期の実際の活動では、自主的審議の開催は月1回ではなかった。各グループに任されていたため、月2回から3回開催することも可能であった。ただし、費用弁償はない。そのため、市民プラザのミーティングスペース等を利用してグループ審議を行ったり、現地を見るなどしていた。

月1回程度開催される地域協議会では、各グループの進捗報告を行っていた。各グループはどんどん進めていかなければならないため、自主的審議が始まると大変である。

これは過去の実例であり、今期は各委員の事情等もあると思うため、グループの中でルールを決めて進めていってほしい。

#### 【谷委員】

何度も言うように、春日山の麓を整備するためにも、どこを草刈りし、どこに花を植えたらよいか等、実際に現地を見て回りたいと思っている。

また、地域活動支援事業に提案のあった「越後謙信きき酒マラソン the world 事業」が11月7日に開催されると、先日の新聞に載っていた。あの事業も、山を舞台にした春日区を活性化させる行事である。麓を何とかする場所として、空き地の利用といったことを実際に見てもらおうとよいと思う。

#### 【吉田 実副会長】

予定時間も超過しているため、本日はこれで一応終了としたい。

次回の協議会では、テーマを絞り込んでいく方向で協議したい。どのような進め方とするかについては、改めて正副会長と事務局で考えたいと思う。

以上で次第3 議題「(2) 協議事項」の「自主的審議について」の「2) 今後の進め方について」を終了する。

次に次第3 議題の「(3) その他」である。本日の議題に関して、何かあるか。

**【太田会長】**

次回の協議会までに少し心積もりをしてきてほしいため、少し話をする。資料3を確認してほしい。

自主的審議の進め方について、いくつかのグループに分けて分科会形式で行ったほうがよいのか、それとも20人全員で1つのテーマに向かって進めたほうがよいのかについて、各自の思いや考えをまとめて決めてきてほしい。

次回の協議会では方向性や矛先をもう少し決めていければよいと思う。資料3には、項目やその内容が分野別に記載されている。特化したいと思う項目等、各委員の思いもあるため、ある程度の矛先を決め、その中で採決し、賛成の多い方向性に絞っていくかたちをとっていかなければ、なかなか前には進んでいけないと思っている。

せっかくここまでまとめたものがあるため、資料3を参考に次回はもう少しステップアップをして、グループ、または分野等の方向性を絞っていきたい。

**【吉田 実副会長】**

以上で次第3 議題「(3) その他」を終了する。

次に次第4 その他「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求める。

**【藤井係長】**

- ・次回の協議会について説明

**【吉田 実副会長】**

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：10月26日（火）午後6時30分から 市民プラザ 第2会議室
- ・内容：（仮）自主的審議について  
その他、何かあるか。

**【藤井係長】**

いろいろなご意見が出た中で、人口動態について、災害について、高齢者世帯について、市の担当課の話を聞きたいといったご意見があったため、担当課と調整したい。

正副会長と相談をして、担当課との調整がついた場合には、次回の協議会で説明の機会を設定したいと思うが、難しい場合には他の内容にて案内する。

**【吉田 実副会長】**

補足の情報だが、以前より話に出ていた春日山荘についてである。

春日山荘は、やはり春で終わりのようである。次回までに情報を集めるといった話を聞いているのだが、渡部委員より補足等あるか。

#### 【渡部委員】

春日山荘は市や社会福祉協議会が運営しているが、目標として来期より講座の会場を移すと聞いている。

理由としては老朽化と言っているが、本当の理由は分からない。

現在利用している人たちは徐々に会場を移動しており、自分が通っている講座では「市民いこいの家」または「たかだ趣味の家」の利用を選択するように言われている。だが「市民いこいの家」の浴場が3月31日で終了となる。その後、浴場を改修等する期間があり、講座の募集をする関係もあるため、個人的には廃止時期は来期ではなく再来年の4月だと思っている。

#### 【吉田 実副会長】

もう少し状況が見えてきたところで、改めて話をしたいと思う。

#### 【太田会長】

最後に、春日地区町内会長協議会との懇談会についてである。

先ほど市川委員より話があったように、各町内会長と地域協議会委員、事務局が入ると40人を超えてしまうため、全員での開催は難しいといった話が、正副会長と事務局の協議の中で出た。だが、何もしないわけにもいかないため、町内会長連絡協議会の会長や役員と調整を取りながら、何らかのかたちで行いたいと考えている。

顔を合わせての開催となるのか、または書面での情報交換となってしまうのかは、現時点では何とも言えないが、年度内には何らかのかたちで開催したいと考えている。

少し話が進んだ際には報告したいと思う。

#### 【吉田 実副会長】

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。